

## HEADLINE

表

1. 天高く馬肥ゆる秋
2. 大学入試制度改革で何が変わるのか？

裏

3. 三つ子の魂百まで 読書のすすめ
4. 時代の先をみる(ユーザーとしての未来)

編集後記

### Topic1 天高く馬肥ゆる秋

実るほど頭の垂れる稲穂かな (これは徳に関する格言)

はじめはみんな凡人だと思う。

読書の秋、スポーツの秋……秋は何かと豊かさを感じることができる季節のようです。夏の暑さの中頭に叩き込んだ、詰め込んだ知識を熟成させる時期、それがこれからです。そして、3年生は本番に向けて、1・2年生は翌年に向けて取り組むように、と時は流れます。

高校3年生は、待たなしの受験モードです。体調管理を怠らず、合格のその日まで取り組み続けることでしょう。

高校1・2年生のみなさんの中には「大学受験までにはまだ時間はある。大丈夫、大丈夫。」と考える人も少なくないでしょう。現在の高校3年生の取り組みを見てください。みなさん自身も高校3年生の今の時期を迎えれば、受験勉強には全力で取り組むのでしょ。そうすると、要領よく勉強できる人、記憶力に長けている人など、学習能力が高い人が勝ち残ることになります。

“勉強に関して、自分は凡人だ”と思う人はしっかり心に留めておいてください。凡人が能力勝負で挑めば、能力の高い人にはほぼ勝ち目はありません。なぜならば、双方必至だからです。ですから、凡人が勝とうと思ったら、今から一日でも、一時間でも早く準備を始めるしかないのです。しかも休まず、コツコツと。「無理・無駄・斑(むら)」のある勉強は長期的には身につくものは少ないのです。

ここでの能力とは、理解力や記憶力といった言葉で表されるもので、個人差はあります。みなさんも実感する機会は多いでしょう。みなさん自身で、科目別で考えればもっと理解しやすいかもしれません。この部分の能力の差を妬んでも、恨んでも仕方のないことで、その状況で受験で勝つためにはどのような方法があるのかを真剣に考えてほしいのです。

「どうすれば数学ができるようになりますか？」という質問をよくされます。答えは簡単で、「できるようになるまで繰り返せばよい。」です。数学に限らず勉強は“いつでもできること”を増やすしか道はありません。凡人がそれやろうと思ったら途方もない時間と気力が必要なのです。

大人になって社会に出て、何がみなさんを支えるか、というこの“気力”なのです。余弦定理や微分といった項目などではなく、培った体験こそがものをいうのです。私たちはそれをみなさんに体験してもらいたくて日々指導に当たっています。フランスの哲学者・思想家のヴォルテールという人の言葉に「立派にやり遂げたことに対する最大の報酬は、それをやり遂げたことそのものにある。」という言葉があります。当にその通りだと思います。

残暑厳しいですが、秋なので“秋らしい”タイトルで始めましたが、理由は何でも構いません。今日から、今から始めましょう。誰もが始める時期でなく、人よりも早く、誰よりも早く。

高校2年生は秋季講座がスタートします(すでに始まっている校舎もあります)。よいきっかけにしてください。応援しています。繰り返します。凡人のみなさん、今からきちんと始めましょう。

### Topic2 大学入試制度改革で何が変わるのか？

現在の高校2年生から大学入試制度が変わります。大きな変更点の一つは英語の出題方法と配点にあります。英語試験の概略をおさらいしましょう。

英語受験	基本配点	試験時間	注意点
現行	筆記200・リスニング50	筆記80分・リスニング30分	新テストでは、外部検定(英検またはGTEC)の受験が必須
新テスト(大学入学共通テスト)	リーディング100・リスニング100	リーディング80分・リスニング30分	

筆記は「リーディング」となり、文法事項の小問集合はなく、長文中心。

上の表のように長文読解とリスニングに重点を置いた大幅な変更となります。

更に、現在の2025年度入学者選抜試験(現在の中学1年生が大学受験をする年)から英語の共通テストは廃止され、外部試験のみになります。中学生のみなさんは、できれば、高校1年生終了時までには英検2級合格程度を目標にすることをお勧めします。英検は学校の学習プログラムとは別ですから、とても良い意識づけになります。小中学部の文理だより小学生の青野君が英検2級に合格した記事を掲載しましたが、本当にすごいと思います。みなさんも負けじと頑張りましょう。これを読んでくれている中学生のみなさんは知らない言葉がたくさんあると思います。興味があったら調べてみてください。

紙面の関係で、多くは載せられませんが、高校生のみなさんが入手しなければならない情報は、大学別です。公立大を中心にすでに公開されている大学もありますが、多くは10月以降で各大学が受験についての情報を決定、公開する予定となっています。第一志望大学を狙い撃って調べましょう！

### Topic3 三つ子の魂百まで 読書のすゝめ

「小さいころの影響は、その後大人になっても思考、行動に強く表れる。」という意味です。

その重要な若いころの体験について、今号では、「読書のすゝめ」について取り上げてみます。

書を読む、それが読書です。近代文学でも、現代作家の推理小説でも、西欧の文学作品でもよいのです。

「読書なんてしている時間がない。」という人は身近にいる読書が好きな人に聞いてみてください。「本を読む時間をどのようにして作っているのか？」と。きっと読書をしない人からしたら予想もしない答えが返ってくるでしょう。

先日、とある場面で、とある方の話を聞いていたら「おいしい料理のおいしさを分かるためには、小さいころにどういった料理に触れているかなんだよね。」と話されており、やはり小さいころの経験が重要なのだと思いました。

テレビなどの映像をみることなどと異なり、読書は能動的で、読書には意思やパワーが必要です。平たく言うと「面倒くさい」のです。しかし、「良薬口に苦し」みなさんの大きな糧となるはずで、

最近の高校生の感覚では、図書館というのは“快適な環境で自習をする場所”というイメージが強いのだそうです。みなさんの中にも自習室として積極的に図書館を使う人もいます。確かにいろいろな調べものがインターネットを通じて、場所時間を問わず可能になった現在、図書館の蔵書で調べものをしようと思う人はいないでしょう。ですが、本来「図書館」とは図書をたくさん抱える館なのです。しかも貸し出してくれる、無料で。本を借りに行く場所として図書館はとてありがたい場所なのです。

小さいころからおいしい料理を食べることや、芸術性の高い美術品の実物を見たりすることは、とても制約が多いと思います。しかし、読書については、みなさんの生活圏にある図書館まで足を運べば、経済的な制約もなく、いくらでも経験できるものなのです。誰でもその気になれば、その利用が許され、サービスを受けることができるのです。なんと素晴らしいことでしょう。

そして、読書を勧める最大の理由は、表現力が豊かになることです。読書とは疑似体験です。実体験よりも先に経験すること、後追いの体験として読書が印象そのものを強化してくれること、いずれにしても読書が精神性に大きく影響を与えてくれます。国語の勉強のためにというのではなく、人生を豊かにしてくれる読書は、若いころにこそ経験してもらいたいものなのです。

だいたい世の中は「やりたいけどできない」か「やらなければならないが、やりたくない」のどちらかで構成されているものですが、「できない」「やりたくない」を言わなければ何でもできるということの裏返しなのです。何事も“為せば成る”のです。

### Topic4 時代の先をみる(ユーザーとしての未来)

スマートフォンが誕生して26年だそうです。一般化して12~15年ほど。私たちの生活は一変し、とても便利になりました。私も劇的に変化した時期を経験していますが、あくまでも使う側(ユーザー)としてです。先端技術の粋を集めた製品を生み出す側としてではありません。

みなさんも、今後の人生の中で、最先端技術を生み出す側よりも、それを享受する側の立場となる方が圧倒的に多いのだと思います。

高校生のみなさんにとってスマートフォンは、物心ついたころからあるもので、珍しいものではないことでしょう。“手に入れたときが生活が変化するとき”なので、時代ではなく世代による変化です。その変化は予見できるもので、突然起きたものではなかったはずで、

みなさんが今後、便利なもの(文明の利器といえる)に出会う場面はいくつもあると思います。その際大切なことは、みなさんの心構え、考え方です。固い言葉で表せば、倫理観です。あることが便利になったとき、その利点の一方で、問題点が浮かび上がってきます。

例えば戦後復興のなかで資材確保のために森林が伐採され、そのために自然破壊、山の保水力の低下による災害が起き、こういったことを解決するために、杉の植林がなされました。今となってはどうでしょう、花粉症を発症する人が飛躍的に増加して、それに苦しんでいる人は数知れません。歴史の中では、俗説ですがローマ帝国が滅んだ理由はワインであった、というのがあります。それまでのワインは酸味が強く、お世辞にもおいしいとはいえないものだったそうです。ところが、鉛の容器(コップ)にワインを注ぐと、そのワインは甘くなり、とても飲みやすく、おいしいものになったそうです。そのため、ワインの摂取量が増え、アルコール依存度が高まったために、ローマ帝国が滅んだ、というのです。鉛と酢酸が反応すると、酢酸鉛(鉛糖)という甘い物質が生成されるそうで、この甘さが毒となったわけですね。

つまり、一時的な成果・効果があるもの、欲求を満たすものでも、長期的な視点でとらえると、ためにならないものはこれまでもたくさんあった、ということです。そのとき、大切なのは律すること、依存することに対する不安、危機感を持つことなのです。今、大人たちは「スマートフォンは悪い」といってはばかりませんが、悪いのはそれを使う人間にあるのです。高校生にもなったら、これくらいのことは理解しなければいけません。

しかし、わかっているがつい・・・という感覚もわかります。ですから、強制力を持つ状況に身を置くのです。例えば、文理学院の自習室に行く、であったり、勉強の時間は親に預ける、といったように。高校生活の3年間は先を決める上で、とても重要な3年間です。勉強に限らず、何を学んだかが問われる時期です。みなさんが今後、人間の生活が激変するような技術革新に出会ったとき、価値観がひっくり返るような現実に出くわしたとき、問われるのはみなさんの人間性です。それを構築する上で、大切な時期に何か打ち込む人間と、依存する人間とでは将来とんでもない差を生むことはみなさんも理解できるでしょう。人間はいつの時代でもこの“弱さ”“もろさ”“危うさ”と向き合い、克服してきました。また、そういう人が時代の先駆者となってきたのです。今も、その途中なのかもしれません。

みなさんには時代の先駆者となってほしいと思います。

## 高校2年生対象 秋季講座開講！ 一足先に受験生になろう！！

■ブログには各校舎の情報満載！スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ・・・

校舎ブログをホームページから、チェックしてください！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込もうと

せず、いつでも、何でも相談してください(生徒のみなさんも、保護者様も)。

### 新入生募集！

無料体験授業受付中。お友達を紹介してください。

### 編集後記

スマートフォンの使い方について、ある場で話題になりました。テレビ、ゲーム・・・これまで生徒の勉強の妨げとなるものはいつの時代も必ずありました。スマートフォンがこれまでのテレビやゲームと異なる点は、時間、場所の制約が極端に小さいことです。これは利便性の裏返しでもあります。今更スマートフォンを解約したら・・・というのは現実的な選択ではありません。操作性を試してみる・・・いえいえ、試されているのは人間の方なのです。【い】